

第1回 明石市新ごみ処理施設整備技術支援会議 議事録

会議の名称	第1回 明石市新ごみ処理施設整備技術支援会議
開催日時	令和元年10月16日(水) 午後1時30分から午後3時40分
開催場所	市役所議会棟2階 第3委員会室 (明石市中崎1丁目5-1)
出席者	<p>【出席】 (出席人数 3人/全4人中)</p> <p>委員 浦邊 真郎 委員 平石 年弘 委員 渡邊 信久 (委員長)</p> <p>【欠席】</p> <p>委員 濱田 雅巳 (副委員長)</p> <p>【事務局】</p> <p>市長 泉 市民生活局長 岸本 環境部長 石角 環境室長 市川 新ごみ処理施設建設準備担当課長 田中 新ごみ処理施設建設準備担当係長 丸山 新ごみ処理施設建設準備担当係長 福武 資源循環課主任 足立 明石クリーンセンター計画担当係長 寺岡 明石クリーンセンター技術職員 嘉藤</p>
議題 (内容)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会挨拶</li> <li>2. 委嘱状交付</li> <li>3. 委員挨拶</li> <li>4. 委員長・副委員長選出</li> <li>5. 委員長挨拶</li> <li>6. 経緯や検討概要説明             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 技術支援会議について【資料1】</li> <li>(2) 計画策定の背景と目的【資料2】</li> <li>(3) 検討課題について【資料3-1】</li> <li>(4) 技術支援会議のスケジュール【資料3-2】</li> <li>(5) 検討項目の公開・非公開の確認【資料4】</li> </ol> </li> <li>7. 議事 (公開対象項目から順次審議) 【資料5-1～5-3, 6-1～6-2】             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各検討項目審議 (公開)</li> <li>(2) 各検討項目審議 (非公開)</li> </ol> </li> <li>8. その他             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 次回の会議について</li> <li>(2) その他</li> </ol> </li> </ol>
傍聴人数	15名 (記者1名含む)

## 委員長・副委員長選出

立候補者なし。事務局から委員長に渡邊委員、副委員長に濱田委員の選出を提案し、出席委員の同意により、渡邊委員長、濱田副委員長として選任。

## 経緯や検討概要説明

委員 (資料3-1) 国際的に取り上げられるプラスチックは容器包装に限ったものではないが、市の検討課題では、国内の法律を重視して容器包装に限定しているのか。容器包装プラスチックの分別収集は、プラが風に飛ばされる等の課題が考えられる。

事務局 容器包装プラスチックに関しては国の施策動向に合わせて検討する。また分別収集に関しては住民負担等を考慮する必要があるため、来年度以降の一般廃棄物処理基本計画の見直しで、有識者意見を参考にしながら検討するため、本計画では、容器包装プラスチックの分別は有り無しとの2通りとする。

委員 (資料3-1) 現在の下水汚泥の混焼率はいくらか。

事務局 建設当時は日量約40tの混焼を想定して設計。現在は熱量減少等を考慮して、日量10tを上限としている。

委員 交付金要件を満たすために、ごみ減量目標の設定値はあるのか。

事務局 交付金要件を満たすための数値的根拠は示されていない。近隣市の実績を参考に、減量目標値20%を設定。

委員 事業系ごみが増加傾向にあるが、事業系ごみ減量の施策は検討しているか。

事務局 一般廃棄物処理基本計画に示している減量施策を実施している。

委員 合併浄化槽で発生する汚泥は下水処理場が受け入れているため、環境部局では処理しないという認識でよいか。また下水処理場側の処理余力は足りているか。

事務局 し尿の収集・運搬は環境部局が実施しているが、処理は下水側（二見浄化センター）で実施している。また処理余力に関しても特に問題ないと考えている。

委員 市内の下水処理場に消化槽を設置している所はあるか。下水処理場の消化槽で、一般廃棄物中の生ごみを処理する余力はあるか。

事務局 二見浄化センターに消化槽はあるが、市内に4つある浄化センターの汚泥処理が優先されるため、生ごみの受け入れは困難と考えられる。

委員 下水処理に関して言及した理由は二点ある。一つは近年の国の方針として地域によっては下水道接続よりも合併処理浄化槽による汚泥処理を推進していること。二点目は、汚泥脱水技術の向上により、脱水汚泥が自燃可能なほど含水率を低減できるようになったこと。

委員 下水処理場における余熱等はどのように活用されているか。

事務局	二見浄化センターで回収されたメタンガスを汚泥焼却の燃料とし、焼却排熱の一部を汚泥乾燥に利用している。助燃剤は炉の立ち上げ時のみ利用する。
<b>検討項目の公開・非公開の確認</b>	
委員	メーカーからの提供資料を審議する際は非公開になる点に注意すること。 ⇒今回の会議は、すべての項目を公開とする。
<b>施設の理念・基本方針</b>	
委員	理念1：環境保全に配慮し地球温暖化対策に貢献する施設に関して、具体的なイメージは考えているか。
事務局	具体的なイメージは今後検討する。現在の施設では小学4年生の受け入れや夏休み期間での見学を実施している。またJICAの見学や、施設内のメガソーラーの視察対応を実施している。
委員	環境学習のみでは興味が薄れていく可能性があるので、他施設の事例を参考にしながら、ごみに限らない生活に関わる理科全般を題材にした市民対応を考えてみてはいかがか。
委員	理念3：災害廃棄物処理への対応ができる施設に関して、災害時のエネルギー供給については言及しなくてよいか。
事務局	災害時の対応が環境省の交付金要件でもあるため、合わせて考慮していく。
委員	環境保全の自主基準を法規制基準より厳しくすると断言していいか。法規制は既に厳しい数値であるが。
事務局	現在の明石クリーンセンター周辺の自治会との協定において、法規制値より厳しい自主基準を設定している。そのため、新施設において、自主基準を法規制に合わせるのは困難と考えている。適正な基準値についてご意見をいただきたい。
委員	法規制基準値の中にも、項目によっては既に厳しい基準値であるものもあるため、必ずしも全て厳しく設定するのではなく、技術面や費用面も勘案しながら検討していきたい。
<b>計画処理量の検討</b>	
委員	明石市の平成30年処理実績から20%削減は厳しいと考えるが可能か。近隣市の20%削減を達成できた背景には、再生資源の活発な流通や輸出が実施されていた時代背景がある。
事務局	削減率の目標に関しても、今後の議論で現実的な数値をご助言賜りたい。
委員	家庭系ごみの紙類が減少傾向にある理由は何か。また事業系ごみの資源化・減量化は対応されているか。
事務局	家庭系ごみの紙類に関しては新聞、雑誌の購読量減少が原因と考えられる。事

委員	業系減量施策は、来年度以降の処理基本計画で検討予定。 焼却灰処理における大阪湾フェニックスでの処理量とセメント化の内訳はどのように決められているか。
事務局	大阪湾フェニックスへの埋め立ては、明石市分の総搬入量が決められている。セメント化では処理費用が高いため、財政負担がかかりすぎない程度に処理する。残りの焼却灰を市の処分場で埋め立てている。
委員	人口推計やごみの削減率は市全体に関わることなので、実現可能性等を慎重に検討され、市全体の計画人口を採用すべきではないか。
委員	基本計画において処理量の検討は必要か。
事務局	メーカーアンケートのために処理規模の目安は決定しておく必要がある。
委員	災害廃棄物対策指針の出典表記において、平成30年3月時点で「環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部」の名称でよいか確認すること。
<b>処理方式の検討</b>	
委員	処理方式の評価（◎○△×）は妥当だと思う。
事務局	今後、委員等の意見を参考にしながら精査していきたい。
委員	災害廃棄物処理に適した燃焼方式は検討しているか。施設が一つしかないので、汎用性のある施設を検討したほうがよい。
委員	メーカーアンケート時には、バイオガス化施設の建設を想定した場合のコメントも貰うのはいかがか。 なおメーカーアンケートは詳細な成果を期待するものではないので、メーカーに過度な負担がかからないようなアンケートとすること。バイオガス化施設の検討は定性的な評価のみ求める等の考慮をすること。
<b>周辺環境について（解体工事方法について）、解体計画（周辺環境について）</b>	
委員	図面からアスベスト含有箇所は把握しているか。
事務局	竣工時の図面からアスベストを含有している商品を事前調査している。加えて調査結果を踏まえてアスベストの概況を把握する。
委員	ダイオキシン、アスベストの測定方法は大型装置によるものと、現場で簡易に調査する二通りがある。資料からはどちらの調査方法を採用するのか区別できない。
事務局	区分ごとに調査予定であるが、まだ区分の設定はできていない。
<b>その他</b>	
事務局	次回の技術支援会議を、11月5日（火）10:00からとする。

以上